2023年度　経営学研究科（結果）

PLAN（計画）	DO（実施）		CHECK（評価）		ACITON（次への改善）
			C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況（実施率）	評価	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・将来構想プログラム委員会（カリキュラム検討委員会）で検討する（短期および中長期）。 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトの情報更新や追加を継続して実施。 ・現役院生・修了生の活動や業績等の情報発信。 ・大学院説明会や修士論文公開報告会での併催企画。 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・内部特別選考の事前説明会で在学生が体験談を語る。 ・専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性がある学生の推薦を募る。	(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・1年修了可能な会計プログラム案を構想した。他大学院で修得した会計科目を認定するために会計科目を中心に科目を増設した。 ・会計プログラムを2024年度開講するために規定改訂及び設置科目改訂を行った。 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトにて教員，院生・修了生の活動や業績等の情報発信をした。 ・大学院説明会に加えオンライン相談会を開催した。 ・BM・CM合同修士論文中間報告会及び公開報告会にに続く形で研究報告会を開催した。 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・内部特別選考の事前説明会にCMの在学生が参加し体験談を語った。 ・教授会で内部進学を希望する学生の推薦を募った。	80%	(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・会計プログラムの新規開設科目は限定的になった。 ・規定改訂によりBMコースで1年修了が可能となった。 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・学会部会や研究会の開催，修了生の表彰や業界紙のコラム連載記事などの情報が発信された。 ・1月のオンライン個別相談会参加者は3人だったのでニーズはあるが，年間の参加者は3名減った。 ・公開報告会の開催日が修了判定後のため報告者の動機付けが弱い。 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・BM在学生の参加なし。 ・学部教員から内部進学希望学生の推薦2名がⅢ入試で合格。	②大学院説明会・オンライン相談会の参加者人数 22年度：41名 23年度：38名	(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・会計プログラムに必要な科目を追加・開設するための段階的な計画を検討する。 ・会計プログラムに必要な科目を全て開設するためには，運営コストやBMコース全体の科目構成のバランスを考慮する必要がある。 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・BM/CMの公開報告会の位置付けや実施時期について再検討をする。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・BM在学生に体験談を語ってもらえるように手配する。 ・次年度も飛び級も含め，学部教員から内部進学希望学生の推薦を募る。
④学生募集の強化 ・専門ゼミ担当教員に学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼する（科目等履修生）。 ・Ⅲ期入試を意識したオンラインによる個別相談会を1月に実施する。 ・海外提携先（北京第二外国語大学、北京語言大学、吉林動画学院）からの留学生受け入れのために募集対策を検討。 ・吉林動画学院とASIAGRAPHを通じてアニメーション作品の応募を通じて交流を実施する。 ・新たな学生募集先を模索し，協力・提携関係を設けることで安定的な学生確保の手立てを探る。 ⑤中長期目標の検討 ・将来構想プログラム委員会を中心に研究科としての方向性の検討に着手する。 ・内部進学に加えて学部卒業生のキャリアアップや学び直しのニーズに応えるための研究科のあり方や施策等を検討していく。	④学生募集の強化 ・教授会で学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼した（科目等履修生含む）。 ・Ⅲ期入試に向けたオンライン個別相談会を1月に実施した。 ・吉林動画学院とASIAGRAPHへのアニメーション作品応募を通じた交流はなかった。 ・新たな学生募集先として中国・アジア圏のコンテンツ業界志望者をターゲットとして，国内アニメ制作会社と包括連携協定の締結に向けて交渉を進めた。 ⑤中長期目標の検討 ・1年修了可能な会計プログラム案を構想し，会計プログラムを2024年度開講するために規定改訂及び設置科目改訂を行った。 ・将来構想検討の第一歩という位置付けから研究科の課題と今後の展望をテーマとしたFDを実施した。 ・会計学を体系的に学んでいない内部進学希望者に，社会人1年目に科目等履修生，2年目から正規生となり3年間で修了する学修計画を提案した。		④学生募集の強化 ・学び直しを希望する卒業生の推薦なし。 ・オンライン相談会によりⅢ期入試の志願者ニーズに応えられた。→参加者3人。 ・国内アニメ制作会社との包括連携協定の締結は，学内施設の確認後の4月4日以降になった。 ・吉林動画学院とASIAGRAPHへのアニメーション作品応募を通じた交流はなかった。 ・新たな学生募集先として中国・アジア圏のコンテンツ業界志望者をターゲットとして，アニメ制作会社と包括連携協定を締結した。 ⑤中長期目標の検討 ・2024年度に開講できた会計プログラムの新規科目はコストの関係で限定された。 ・FDにより将来構想検討のために参考となる情報が共有された。 ・学部を卒業する年から3年計画で会計分野で修了を目指す学部生が1名が出た。		④学生募集の強化 ・学部卒業生へのアプローチを開始する。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。 ・国内アニメ制作会社と協力・連携事項であるインターンシップの開始と提供する施設・機材の整備。 ・次年度はコロナの影響がないため吉林動画学院とASIAGRAPHへのアニメーション作品応募を通じた交流を探求する。 ⑤中長期目標の検討 ・次年度，将来構想としてBM全体の検討を進める。その中で・会計プログラムに必要な科目を段階的に追加していく計画も検討する。 ・BMの経営分野，マーケティング分野の卒業生に対して3年計画あるいは長期履修によって修士号の取得を目指す学生をターゲットとして募集活動を行う。

2024年度　経営学研究科

PLAN（計画）
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
(1)B'sVision2024の方針を踏まえた年次目標の設定および中長期目標の検討 ①教育力日本一を目指したビジネス・マネジメントコースのカリキュラム改訂 ・将来構想プログラム委員会（カリキュラム検討委員会）で検討する（短期および中長期）。 ②永久サポート大学として社会人に向けた効果的な広報の確立 ・研究科webサイトの情報更新や追加を継続して実施。 ・現役院生・修了生の活動や業績等の情報発信。 ・BM/CMの公開報告会の位置付けや実施時期について再検討をする。 ・大学院説明会や修士論文公開報告会等の行事やBM/CM合同研究会への修了生参加の促進。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。 ③学部との連携強化によるストレートマスターの確保 ・新入生学修ガイダンス，2年・3年生の履修ガイダンスで内部特別選考について説明する。 ・内部特別選考の事前説明会で在学生が体験談を語る。 ・専門ゼミ担当教員へ前期中から内部進学の可能性がある学生の推薦を募る。
④学生募集の強化 ・専門ゼミ担当教員に学び直しを希望する卒業生の推薦を依頼する（科目等履修生）。 ・卒業生へ郵送・メールで案内を送る。キャリアセンターによる卒業生調査等との連携可能性を探る。 ・オンライン個別相談会を12月にも実施する。 ・国内アニメ制作会社との協力・連携事項を実行する。 ・海外提携先（北京第二外国語大学、北京語言大学、吉林動画学院）からの留学生受け入れのための募集対策として国内アニメ制作会社との連携協定を活用する。 ・吉林動画学院とASIAGRAPHを通じてアニメーション作品の応募を通じて交流を実施する。 ・新たな学生募集先として日本語学校を模索し，協力・提携関係を設けることで安定的な学生確保の手立てを探る。 ⑤中長期目標の検討 ・将来構想プログラム委員会を中心に研究科としての方向性の検討を継続する。 ・次年度，将来構想としてBM全体の検討を進める。その中で・会計プログラムに必要な科目を段階的に追加していく計画も検討する。 ・内部進学に加えて学部卒業生のキャリアアップや学び直しのニーズに応えるための研究科のあり方や施策等を検討していく。

2023年度　経営学研究科（結果）

PLAN（計画）	DO（実施）		CHECK（評価）		ACITON（次への改善）
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況（実施率）	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ①大学院教育における生成系AIの活用方法（候補案） ・後期の実施に向けて上記の他の候補も含めテーマを検討。 ・従来の専門家による講演会形式に加え，教員によるグループディスカション形式等の開催方法を検討。	(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ①大学院教育における生成系AIの活用方法（候補案） ・将来構想検討の第一歩という位置付けから研究科の課題と今後の展望をテーマとしたFDを後期に実施した。 ・講演後に教員による意見交換を実施した。	70%	(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ①大学院教育における生成系AIの活用方法（候補案） ・次年度，検討していく将来構想のために参考となる情報が共有され，同時に教員による意見交換で共通意識が醸成された。 ・生成系AIについては急速に浸透しつつあり活用範囲も広がってきている現状から，FDのテーマとするのは時期尚早であった。		(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ①研究科のカリキュラムの充実や将来構想に役立つようなテーマを検討する。講師については，新任教員，専門家，修了生など幅広く検討する。
(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会（修了生含む） ・M2の代表学生が幹事となり企画・準備・進行を担当 ・対面開催に戻すことで交流の密度を高める。 ②在学生・修了生の研究報告会 ・2022年度に実施した修士論文報告会との併催企画を検証し，実施時期・方法を検討する。	(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会（修了生含む） ・BM・CM合同の修士論文中間報告会及び最終報告会に続く形で修了生が参加する研究報告会を実施することで教員合同院生交流会の開催に代えた。 ・対面かつM2学生による司会進行によって実施した。 ②在学生・修了生の研究報告会 ・2022年度と同様に修了生を講師として迎えた。	70%	(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会（修了生含む） ・教員合同院生交流会の機会が年2回で参加学生・教員が限定的であった。 ・M2学生による司会進行は滞りなく行われた。 ②在学生・修了生の研究報告会 ・修了生と実務家を講師として迎えたことにより，修了生の活躍を知るとともに業界の現状について最新の知識を深めることができた。		(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会（修了生含む） ・教員合同院生交流会の機会の検討と参加学生を増やすための対策を検討する。 ②在学生・修了生の研究報告会 ・2023年度に実施した修士論文報告会との併催企画を検証し，実施時期・方法を検討する
(4)DPを踏まえた授業満足度 2022年度授業評価　4.89（5点満点） ・2023年度指標として同等数値を目指す。	(4)DPを踏まえた授業満足度 2023年度授業評価　4.80（5点満点）	98%	(4)DPを踏まえた授業満足度 ・前年度より0.09ポイント低下。		(4)DPを踏まえた授業満足度 2023年度授業評価　4.80（5点満点） ・2024年度は2022年度「4.89」超える「4.90」を目指す。

2024年度　経営学研究科

PLAN（計画）
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
(2)教学IRの視点からFD研修会の実施計画 ・後期の実施に向けてテーマを検討。 ・専門家に加えて新任教員や修了生教員も講師の対象として検討する。 ・従来の専門家による講演会形式に加え，によるグループディスカション形式等の開催方法も検討する。
(3)ストレス耐性を育む教員合同院生交流会を計画 ①対面開催の院生交流会（修了生含む） ・教員合同院生交流会の機会を検討する。 ・教員合同院生交流会ではM2の代表学生が幹事となり企画・準備・進行を担当する形式を継続する。 ②在学生・修了生の研究報告会 ・2022年度に実施した修士論文報告会との併催企画を検証し，実施時期・方法を検討する。 ・年2回の修士論文報告会・研究報告会への参加学生を増やすための対策を検討する。
(4)DPを踏まえた授業満足度 2023年度授業評価　4.80（5点満点） ・2024年度は2022年度「4.89」超える「4.90」を目指す。